

公益財団法人国際文化フォーラム

2025 年度事業計画書

公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)は、2011年に公益財団法人に移行して以来、国内外の「児童及び青少年を対象とした外国語教育及び多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業を行い、もって児童及び青少年の相互理解と人間形成を図り、新たな国際社会の発展に寄与する」(定款第2章第3条)ことを目的として事業を推進してきました。

急速かつ大きく変化し続ける社会構造や国際情勢、自然環境の中で、「複雑で多様な背景を持ったすべての人がより自由に、より対等に生きられる世界を創り、未来につないでいく」ことをビジョンに掲げ、未来を担う子どもたちが自らの可能性を追求し、仲間と対話・協働し、希望につながる学びの場を引き続き企画・実施していきます。

2025 年度の事業一覧

【公1】 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業

| | |
|--|----|
| ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業 | |
| 1. 学校のソトでうでだめし「モリトクラシト・メカニクス」 | 2 |
| 2. アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動 | 4 |
| イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業 | |
| 1. イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動 | 5 |
| ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業 | |
| 1. 「多文化×芸術」事業 | 5 |
| (1) 「とやま PCAMP2025」とプレワークショップ | |
| (2) 「とうきょう PCAMP2026」 | |
| (3) ネットワーク促進 | |
| 2. チキュウノキボウ未来共創事業 The QUEST, The CONNECT | 8 |
| 3. ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動 | 10 |
| エ. 広報事業 | |
| 1. 財団事業等の発信 | 11 |
| 2. エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動 | 11 |
| オ. 助成事業 | |
| 1. 助成金プログラム | 12 |

公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業

◆公益目的事業会計 予算額 106,959,226 円（内、共通費用 74,876,628 円）

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

◆予算額 8,493,600 円

事業名：学校のソトでうでだめし「モリトクラシト・メカニクス」

予算額：6,568,600 円

事業の目的

子どもたちが、社会構造や環境が大きく変化していく時代にあっても、自分の可能性を存分に試し、希望をもって生きるとともに、多様な生き方や価値観が尊重され、人びとの対等性が重視される社会を創造していく。本事業ではそのための土台となり支えとなる経験と学びの場をつくる。より具体的には、子どもたちがこれから直面するかもしれない社会の格差や環境、資源などの問題とそれによって引き起こされる分断や争いについて、人びとの思想信条を「教え」で変えるのではなく、問題の構造を捉え、仕組みに働きかけることで根本的な解決策を見出すために考えられた技術とその背景にある視座を学ぶ場をつくる。

2025 年度の実施内容

「その辺のもので生きる」オンライン講座(2020-2023 年度)のコンセプトを踏襲して 2024 年度からスタートした「モリトクラシト・メカニクス」*を、鹿児島県日置市を中心に展開していく。

(1) 鹿児島県以鹿児島県日置市を中心としたプログラムの展開(対面)

2024 年度に日置市と「本質的・探究的・体験的な学びを通した生涯学習の推進に関する包括連携協定」を結んだことを受け、2025 年度より市内の公共施設(公民館など)での講座や小中高校での授業を重点的に展開していく。公共施設での講座は、日置市内の小中高校生だけでなく、全国から参加者を受け入れる。また、日置市や鹿児島県内の教員向けの講座の実施も検討する(関係者と協議中)。

(2) 鹿児島県以外の地域でのプログラム実施(対面)

2 年間にわたって継続してきた東京の桐朋小学校(私立)での授業を、2025 年度も実施する(学校と協議中)。

*モリトクラシト・メカニクスとは

身近に手に入る草木や竹や石などの素材を、工具を使って加工し、新たな「道具」を作り出す。その過程で以下のような学びと経験が生成される場づくりを行う。

- ・ 学校で学ぶ知識を、「自分の暮らしに密接に結びつき、人生を助け、豊かにしてくれるリアリティをともなった知恵」として学びなおす。
- ・ 一連の活動を通して、「観察する→仮説(課題)を設定する→試す」というサイクルを繰り返しながら本質に迫る探究的なあり方、ものごとの連鎖や複雑で多様な構造を捉え解決を見出すシステムの・包括的なものの捉え方、既存の枠組みをクリティカルに分析し新しい枠組みを創造する力、自分自身のニーズや考えをより解像度高く捉えことばで表現する力、目的を見極めたうえで交渉する力、対等性への感度などを身につけていく。
- ・ 身近な素材から自分に必要なものを自分で作り出すためのさまざまな術を身につけることで、「自分や周囲の課題は自分の手で解決できる」という自信を醸成し、自分自身で自己を承認する力を育む。

【扱う内容例(調整中)】

●「竹から、ざる・かご、竹ドームをつくる」

- ・ 放置竹林を整備し、人がどのような介入をすれば生態系がよい方向に変化するのかを体験、観察する。
- ・ 材料となる竹をとり、ひごにして、ざるなどの道具を編む。編むプロセスで現れる三角形や六角形などの図形のもつ機能(強度など)やそれらの図形が組み合わさった幾何学の構造を観察、理解する。
- ・ 次に、その構造を応用して人が入る大きさの竹のドームをつくる。
- ・ 材料となる竹の入手から、竹を使った道具や構造物の製作、道具・構造物としての役割を終えた後の竹の行き先(土に戻り循環する、生態系に害を及ぼさない)までの一連の流れをはしよることなく見通し関わる体験をする。
- ・ 自分が使うものの成り立ちから使ったあとの処理まで、「ここは考えなくていい」という思考のブラックボックスをはさみこまないものの見方とふるまい方、課題解決のあり方を体感をもって知る。

そのほか、

- ・ 「草をなつて縄をつくり、縄を織ってむしろをつくり、防水・断熱材として竹ドームの屋根や壁、床にする」
 - ・ 「板と棒から火を起こし、熱の起きる仕組みや熱の伝わり方、身体の使いかたを知る」
- 等の活動を行う(内容は変更の可能性あり)。

2025年度の事業のポイント

2024年度に日置市の公共施設(公民館)でモリトクラシト・メカニクスを6回実施。また、市内中学校での授業を2回実施した。これらの活動を通して、日置市教育委員会が市内の小中学校の全児童・生徒に募集のチラシを配布、地元の自治会・商店・機関がチラシを配布・設置、地元ライオンズクラブから協賛の申し出があるなど、行政・市民からの理解と継続的な協力が得られるようになった。モリトクラシト・メカニクスの講座は毎回数日で定員に達するなど、地域での認知度と評価も高まってきている。その実績をふまえて日置市から提案があり、「本質的・探究的・体験的な学びを通した生涯学習の推進に関する包括連携協定」を締結することとなった。2025年度はその初年度として、日置市の公共施設、学校での活動を重点的に展開する。

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業

◆予算額 540,000 円

事業名：イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動

予算額：540,000 円

2025 年度の実施内容

関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。2005 年度から約 10 年にわたり TJF が実施してきた「外国語学習のめやす」からの発展ケースとして、慶應義塾大学が実施している文部科学省委託「専門機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した多様な外国語教育推進事業）」にも引き続き協力していく。

ウ. 多様な言語や文化の背景をもつ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

◆予算額 18,841,700 円

事業名：「多文化×芸術」事業

予算額：8,400,000 円

事業の目的

「多文化×芸術」事業とは、TJF が「多文化×芸術」をコンセプトとし、「一人ひとりの言語的、文化的バックグラウンドや個性をはじめとする多様性を尊重しながら創造性を育む社会環境の醸成」を目的として展開している一連の事業を総称する。

2017 年度より8年間にわたりアーティストや地域の方々と連携してパフォーマンス合宿(PCAMP)の回を重ねるなか、「多文化×芸術」というコンセプトに共感する方々が増え、体験ワークショップ、アウトリーチ(地域への展開)を求める声が寄せられてきた。それを受け 2022 年から広島、富山などの地域で PCAMP を展開するとともに、開催地や周辺地域の小中高校生、学校教員、市民、演劇関係者、それぞれを対象とする体験ワークショップを開催してきた。2025 年度からは、これらのワークショップを体験プログラム(体験ひろば)とネットワーキング(T-ART ネット)として発展させ、PCAMP という中核プログラムと合わせて「多文化×芸術」事業として取り組んでいく。

PCAMP では、中高生年代を中心とする多様な参加者が以下のゴールを達成することを目的とする。

- (1) ことばと身体で自分を表現する。
- (2) バックグラウンドの違いを越えてコミュニケーションを図る。

- (3) 創造性を刺激し合いながら異なる他者への理解を深める。
- (4) 多文化共生社会の一員として、協力・協働・共創を体験する。

また、地方都市や地域のニーズに寄り添い、「体験ひろば」と「ネットワーキング(T-ART ネット)」といったPCAMP 関連プログラムの実施を通して、多文化共生の地域づくりを担う次世代リーダーや実践者の育成、多様な中高生年代の学びと交流を支える保護者、教員、市民への働きかけも行う。さらに事業の記録、成果、課題等を「多文化×芸術」ウェブサイトで蓄積・発信し、より一層の波及効果を狙いつつ、ネットワーキングの促進を図り、地域的な広がりを目指す。

2025 年度の実施内容

(1)「とやま PCAMP」とプレワークショップ(対面)

2024 年度の初コラボにつづき、公益財団法人富山市民文化事業団(オーバード・ホール)とTJF の共同主催で継続開催する。

■ とやま PCAMP2025(対面、合宿型)

日程:8月8日(金)~11日(月)

対象:多様な中高生年代(14~19歳)30名

参加費:5,000円(共催機関の予算に計上)

内容:演劇とダンス・身体表現を通して交流し、協力してパフォーマンス作品を創り、発表する。

ファシリテーター:柏木俊彦氏、田畑真希氏、森永明日夏氏、長谷川万葉氏、ほか富山現地アーティスト1名

音楽:ヤマダベン氏

■ 体験ひろば(PCAMP のプレワークショップ、対面)

より多く、より多様な中高生年代にPCAMP に応募してもらうには、中高生年代のみならず、それを取り巻く兄弟姉妹、保護者、支援者を含む関係者層への働きかけも必要と考え、児童・生徒、および大人を対象に身体やことばを使った表現活動の楽しさを体験してもらう機会を提供する。

- ・ 身体表現とダンス中心のワークショップ(主にオーバード・ホールが経費負担)

日程:①4月26日(土)、②4月27日(日)午前、③4月27日(日)午後

対象:①外国につながる子どもの日本語・学習支援団体等(20名を支援団体が募る)

②③小学生から大人まで(公募、20名)

参加費:無料

ファシリテーター:田畑真希氏(メイン)、長谷川万葉氏

- ・ ことばと演劇中心のワークショップ(主にTJFが予算分担)

日程:①5月24日(土)、②5月25日(日)午前、③5月26日(日)午後

対象:①中学生から大人まで(20名、公募)

②小学生限定(20名、公募)

③児童館を利用する中高生(15名を児童館が募る)

参加費:無料

ファシリテーター:柏木俊彦氏(メイン)、長谷川万葉氏

(2)「とうきょう PCAMP2026」

PCAMP は 2018 年東京から全国版(全国から募集)としてスタートした。2020 年からのオンライン版、2022 年からの地域版(広島、富山)を経て、2025 年 3 月に再度東京で「地域版」として開催。2025 年度以降、夏は地方都市会場で現地のカウンターパートと共催し、春は東京会場で TJJF 主催の開催とする。

日程：2026 年3月 26 日(木)～29 日(日)

対象：帰国子女を含め外国につながる中高生年代(14～19 歳)を中心に 30 名

＊外国につながる中高生年代と積極的に交流したい同世代の応募も歓迎。

参加費：8,000 円 ＊サポーター5 名、非課税世代枠5 名 参加費免除

内容：演劇とダンス・身体表現を通して交流し、協力してパフォーマンス作品を創り、発表する。

ファシリテーター：柏木俊彦氏、田畑真希氏、ほかメインファシリテーター1 名、サブファシリテーター2 名

(3) ネットワーク促進

■ T-ART ネット

T-ART ネットとは、TJJF を中心に広がる「多文化×芸術」のネットワークです。T は TABUNKA(多文化)、TA(Teaching Artist)、TJJF に共通する頭文字から取った。「T-ART ネット」では、TA 研修の情報公開、メンバー登録、メンバーが情報交換するための「フォーラム」と学び合うための「TA 勉強会」の開催、メンバーによる「多文化×芸術」活動の紹介・サポート・連携をしていく。

「T-ART ネット」のメンバーは、以下の項目のいずれかに該当する個人または団体で、T-ART ネットのメンバー登録した方。

- ・ PCAMP のファシリテーター、サブファシリテーター経験者
- ・ TJJF のこれまでの「多文化×芸術」事業の現地カウンターパート(芸術団体)
- ・ TJJF のこれまでの TA 研修の参加者で今後 TJJF と連携して「多文化×芸術」活動を推進していく意志のある方

T-ART ネットの活動として、年に一回、T-ART ネットのメンバーが一堂に会し、情報交換会と TA 勉強会を行う「フォーラム」を開催する。情報交換会では、「T-ART ネット」のメンバーによる「多文化×芸術」の活動紹介を行い、対話する機会を持つ。TA 勉強会では、情報交換会で紹介された活動をはじめ、メンバーの取り組みの一部を体験しあい、学び合う。

① フォーラムの開催(対面)

主催：TJJF

日程：2025 年 11 月中旬1日

場所：JICA 地球ひろば(予定)

内容：第 1 部 情報交換会(午前)

対象：「T-ART ネット」会員を中心に、「T-ART ネット」に関心を持つ芸術関係者(30 名)

参加費：無料

発表者：活動を行った会員から募集

第 2 部 TA 勉強会(午後)

対象：第1部に参加した方の中から 15 名

参加費：会員 3,000 円、非会員 4,000 円

ファシリテーター：PCAMP のファシリテーター及び第1部の発表者の中から依頼

② あおもり PCAMP に向けてのリサーチ

2024 年度に ESD 全国フォーラムに TJF が出展したことを受け、ESD 東北センターとのつながりができた。これを受け、2026 年度に青森県で PCAMP が開催できるよう、2025 年度はリサーチを行う。リサーチは、現地カウンターパート及び関係者との会合、ファンリレーターを派遣し体験ひろば(ワークショップ)の開催を含む。ESD とは、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development, ESD)

③ 「多文化×芸術」ウェブサイト運営など広報

PCAMP のプログラムが発展し、PCAMP を含む一連のプログラムを「多文化×芸術」事業として総括することにより、PCAMP ウェブサイトもこれに合わせて「多文化×芸術」ウェブサイトに改訂。地域ごとの取り組み、ネットワーク推進などのページを増設します。また、事業全体のパンフレットを作成し、広報につなげる。

事業名 : チキュウノキボウ未来共創事業 The QUEST, The CONNECT

予算額 : 9,876,700 円 (うち、助成申請額 : 4,530,000 円)

事業の目的

世界の青少年が、地球をテーマに希望する未来像を共創し、多様な他者との関係性構築の機会を提供する。

2025 年度の実施内容

今年度は、合宿型交流プログラム「The QUEST」、学校訪問型体験プログラム「The CONNECT」、オンラインプログラム研究開発を行う。

(1) 「The QUEST」は、地球をテーマにした 4 泊 5 日の合宿型交流プログラムで、国内外から集まった中高生年代の青少年 21 名が参加する。会場は、千葉県木更津市の宿泊研修施設(旧富岡小学校)とし、海外からは TJF のこれまでのネットワークを活用し、2025 年度は韓国、中国、モンゴル等*から参加者を迎える。参加者は、多様な他者との出会いを通じて自分の中の固定概念に気づき、新たな世界観を共創し希望に満ちた未来を探求する。

具体的な活動内容は以下の通り:

- ・ 自己理解及び自己表現「自分の希望未来像」: デジタル地球儀を活用して視座の往還を体感するとともに、自分自身の希望する未来像を深く考え、表現することで自己理解を深める。
- ・ グループ対話「私たちの地球—希望未来像の共創」: 参加者同士でグループ対話を行い、地球に対する希望の未来像を共に描き、さまざまな視点を共有する。
- ・ 発表会「わたしたちのチキュウノキボウ未来像」: 最終日に、参加者が自分たちの描いた未来像を発表し、成果を共有する。

・主体的学び場「ヨルマナ」:就寝前の自由時間やお昼休みに、日中の活動グループとは違う参加者やスタッフと交流する。

* 今年度フィジビリティスタディーとしてのマレーシア出張とその後の分析の結果、ブミプトラ(マレー系や先住民族の総称)の経済的地位向上と他民族との経済格差解消を目指す「ブミプトラ経済転換計画 2035 [PuTERA(プトラ)35](2024年8月19日アンワル・イブラヒム首相発表)」のもと、募集は全校を対象にした公募でなければならないことや、学期中の引率教員の参加が難しいという学校事情などから、2025年7月末に予定する合宿型交流事業へのマレーシアからの招へいは難しいと判断した。

(2)「The CONNECT」では、事業の広報と協力要請を目的とする学校訪問型体験プログラムを展開する。2025年度は、全国の高校を対象に遠方で3回、近隣で2回開催する。具体的な内容は、以下の通り。

- ・ チキュウノキボウ未来共創事業の紹介
- ・ デジタル地球儀「SPHERE」を活用した共在感覚と視座往還の体験ワークショップ
- ・ 尊重に基づくやりとりを通じたつながりを実現する文脈共創ワークショップ

この他、発展型のオンラインプログラム研究開発を行う。2025年度は有識者へのヒアリングや研修会参加などを通じて、2026年度本格開催を見据えた企画と体制づくりを進める。

2025年度の事業のポイント

(1) これまでの経緯

2021～22年度にかけて科学的な地球認識と地球的課題を、デジタル地球儀を活用した講師の講演を通じて共有することにより、多様な他者とのつながりを築こうとした。多様な他者との関係構築において、地球というテーマが有効であることは確認されたが、実際の深いつながりを実現するには至らなかった。

2023年度は、尊重を基盤とした対話を通じて参加者各自の多様性を掛け合わせ、未来の地球像を共創しようと試みた。この過程において、参加者間で一定の関係性の進展は認められたが、他者を尊重し、理解し受け入れることの難しさが課題として浮き彫りとなった。

2024年度は、知識や理解を前提とせず、まずは地球をテーマに感性や感覚を相互に尊重し受け止めるやりとりからはじめた。その後、対話による知性の交換で理解を深めるというプロセスを踏むと、参加者間で創造的な対話が生まれ、新たなつながりを実現する文脈が共創されることがわかった。また、事業を振り返る中で、地球というテーマは、私たちの惑星についての科学的理解を深めるだけでなく、物事を捉えるための枠組みを越えるメタファーとして機能していたことにも気づかされた。

(2) 2025年のポイント

2025年は、プログラムを合宿型、訪問型(対面式)にすることで、

- ・ 参加者が、より互いの感性や感覚を身近に体感し、尊重し受け止められるようになる。
- ・ 参加者が、日中の活動を通じて得た学びを、就寝前や昼休みなどの自由時間にさらに深められる。
- ・ 参加者が、場の力をかりて、安心してコミュニケーションできるようになる。

など、相互理解だけでなく相互尊重と共に多様な他者との関係構築を体験できるプログラムに進化させたい。また、その知見を活かして発展型オンライン交流プログラム開発につなげる。

工. 広報事業

◆ 予算額 3,659,198 円

事業名：財団事業等の発信

予算額：3,244,198 円

事業の目的

TJF の活動趣旨および各事業についての情報が対象とする層に届くよう、情報発信と環境整備を行う。

2025 年度の実施内容

- (1) TJF の活動趣旨と各事業について、ウェブサイト、メルマガ、SNS 等を通じた情報発信を継続する。
- (2) 財団のパンフレット(ビジョン、ミッション、各事業概要、組織)を作成し、PDF をウェブサイトにも掲載する。
- (3) ウェブサイトの利便性の向上をめざし、環境整備を行う。また制作年度の古いウェブサイト・ページやデータ、機能の整理を行う。

2025 年度の事業のポイント

- (1) 現在の TJF の主なウェブサイトは 2019 年に WordPress を使用して構築したものだが、それ以前に別のアプリケーションを使って制作したウェブサイト・ページが複数存在する。すでに最新のコンピュータやアプリケーションの環境に対応できなくなっているものもあるため、古いページ、データを整理する。
- (2) TJF のウェブサイトは、日英韓中露の 5 言語で運営しているが、多言語ページを運用するための機能がウェブサイト制作アプリケーションのアップグレードの障壁となるなど、ウェブの制作環境を最新に保てない状況が発生している。一方、多言語間の翻訳ツールの性能は、生成 AI の出現もあって飛躍的に向上してきており、無料で利用できるものも多い。今後はユーザー側が自身の必要な言語に翻訳することを前提とし、TJF のウェブサイトから多言語機能を削除する。その上で、ウェブ制作を最新のアプリケーション環境で行えるよう整備する。トップページに掲載するビジョン・ミッションなどは、必要に応じて日本語と英語を併記する。

事業名：工の事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動

予算額：415,000 円

2025 年度の実施内容

関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。

